

## 「西日本豪雨による～貨客船はくおう～支援活動報告」



6月28日～7月8日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が発生し、特に広島県、岡山県、愛媛県の被害が甚大であった。

7月9日に日本栄養士会災害対策本部が設置され、7月10日、厚生労働省健康局健康課栄養指導室より日本栄養士会に平成30年7月豪雨による災害に係る避難所等で生活する方への栄養・食生活の支援について協力依頼があった。本来なら、被災地に近い兵庫県栄養士会が中心となるが、すでに大阪府北部地震により大阪府栄養士会が茨木市で支援を行っていて体制が整っていたため、今回の「貨客船はくおう」での支援は大阪府栄養士会が中心となってチームを編成することになり、7月17日、兵庫県栄養士会より平成30年7月の西日本豪雨に伴うボランティアの協力依頼が、大阪のJDA-DATリーダーとスタッフにあった。その結果、リーダー6人、スタッフ8人から参加可能との返事があった。私は大学の教員で、前期の授業も終了していたため、土日を除いた平日は参加が可能であり、また、大阪のリーダーのまとめ役もしていたので、岡山での「はくおう」支援活動を任されることになった。

7月31日、下浦常務と大阪スタッフの有満、岡山リーダーの竹内理事と宇野港へ打ち合わせに行き、8月3日からの支援に備えた。支援予定が延期や短縮もあり8月2日～8月18日でシフトを組むことになったが、大阪だけでは常に3人体制がとれないため、岡山県栄養士会・兵庫県栄養士会からの応援を得た。防衛省（事務官・自衛隊員）の統括下、岡山県庁、倉敷市役所（事務官・保健師・看護師）、「はくおう」スタッフと共に倉敷市の被災者へ支援を実施した。

東日本大震災の支援でリーダーを引き継いだ、高知県栄養士会の廣内さんも西日本豪雨災害で高知県の支援チームとして、7月25日～26日、愛媛県大洲市で巡回指導をしてきたと連絡があり「愛媛での活動は猛暑の中、非常に過酷であった」とお聞きした。それに比べると、「はくおう」船内は快適温度で、食事は各自で用意するが、宿泊や入浴については船内のスタッフ用を

利用することができた。8月3日～8月18日の16日間で全8回（1泊2日）、第1回～6回は宇野港、第7回～8回は水島港で支援を実施し、倉敷市の各避難所から延べ417人を受け入れた。船内にて入浴（大浴場）、食事（夕食・朝食）、罹災証明書の手続き、音楽演奏、健康相談、栄養相談、その他（卓球など）にて短期間ではあるがリフレッシュして頂いた。対応した栄養士は延べ62人、支援者の417人中で特別な配慮をしたのは18人（4.3%）で、栄養相談は4人（1.0%）であった。具体的な食事内容は、食べられない食材への対応（宗教上の理由で豚肉を鶏肉へ）、トンカツや魚フライなどの揚げ物がダメな方への対応（照り焼き、鰯の干物等）、高齢者対応（嚥下調整食）、5歳児のアレルギー（卵・牛乳・メロン）対応（卵焼き→肉団子、メロン→オレンジ）。栄養相談内容については、脂肪肝、肥満、子供の偏食、便秘、体調不良、野菜不足、子供の食が細い、好き嫌い（2歳児）であった。



今後の課題として、今回の支援は、「はくおう」船内だけの対応であったが、宇野港・水島港周辺の避難所の巡回や状況把握も必要と感じた。また、「はくおう」船内のメニューについては事前打ち合わせで、避難所の食事内容を踏まえた献立提案が出来ればよいと思った。

ご協力頂いた岡山県栄養士会、兵庫県栄養士会の皆様、ありがとうございました。

今後、南海トラフ巨大地震が懸念され、近畿が受援側になることが予測されます。今回の岡山での支援活動を通して得た情報や経験を活かしたいと思います。

（文責 研教 松井欣也）

